

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
家庭支援論 Home Support Theory		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(保育士養成課程必修)	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
相談援助				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育相談支援				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
小竹利夫	講義棟2階	月・火・水・木の8時～18時		授業中に指示します
授業の概要				
子どもを育てる環境としての家庭の役割と現代の諸問題を理解し、保育士として必要な子育て家庭支援を実践的に学ぶ。				
授業の目標				
①家庭が抱える様々な問題を知り、解決策を考える態度を身につけるようにする。 ②家庭が抱える様々な問題に対応できるようにする。 ③外国の子育てを知り、比較検討できるようにする。 ④関係機関との連携について考えられるようにする。				
授業の方法				
実際の事例を通して、家庭における様々な問題とその解決方法を実践的に学ぶ。毎回、小レポートを提出。				
学習の成果（学習成果）				
①家族・家庭が抱える諸問題について理解し、その解決に向けて関係機関とも連携し、保護者に対してその子育てを支援できる。 ②家庭支援の方法を検討し、支援方法を提案できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス。（授業の内容・進め方・評価の方法）			
第2回目	家庭の意義とその機能。			
第3回目	地域社会の変容と家庭支援の必要性。			
第4回目	保育士等が行う家庭支援（アウトリーチ）。			
第5回目	三歳児神話・母性神話。			
第6回目	男女共同参画社会と父親の役割。			

第7回目	世界の子育て。
第8回目	家族・家庭が抱える問題と対応。（貧困・ひとり親家庭）
第9回目	家族・家庭が抱える問題と対応。（出生前診断）
第10回目	障害児及びその家庭に対する支援。（自閉症）
第11回目	障害児及びその家庭に対する支援。（ダウン症）
第12回目	家族・家庭が抱える問題と対応。（DV）
第13回目	要保護児童及びその家庭への支援。（虐待・里親）
第14回目	要保護児童及びその家庭への支援。（特別養子縁組）
第15回目	子育て支援サービスの課題。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	授業を集中して聞き、質問に対して積極的に答える。必要なことはきちんとノートに取る。
レポート	70%	授業の中でレポートを書く。授業の内容を理解した上で、自分の考えを展開することが求められる。1回5点満点で計14回。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

テキスト「保育実践と家庭支援論」。その他、授業内で適宜資料を配布する。

履修上の留意点・ルール

私語禁止。飲食禁止。